

2018年3月期（122期）
決算説明資料

グンゼ株式会社



1. 2018年3月期 決算概要

I-1. 2018年3月期 業績

連結業績

(単位：百万円)

	2018年 3月期	2017年 3月期	対前期		利益率(%)	
			増減額	増減率 (%)	2018年 3月期	2017年 3月期
売上高	140,521	136,579	3,941	2.9		
営業利益	6,239	4,206	2,032	48.3	4.4%	3.1%
経常利益	6,446	4,671	1,775	38.0	4.6%	3.4%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	3,486	3,102	383	12.4	2.5%	2.3%

I-2. 決算サマリー

機能ソリューション事業

(単位：億円)

対前年 増減		主なポイント
売上高	6	◆プラスチックフィルムは、主力のシュリンクフィルムが国内・輸出とも順調、軟包装や工業用途も好調
営業利益	19	◆エンジニアリングプラスチックは、半導体分野向けの牽引とOA機器向けの復調により好調 ◆メディカルは、中国向け組織補強材及び新商品「デュラウェーブ」が好調も、販売体制強化費用等の増加や主力得意先の在庫調整が影響

アパレル事業

対前年 増減		主なポイント
売上高	24	◆インナーウエアは、「完全無縫製」を中心としたレディスインナーと「カットオフ」などの差異化商品ブランド及びスポーツカテゴリー商品並びにEC・SPA等成長チャネル拡販により順調
営業利益	1	◆レッグウエアは、タイツや防寒商品等は健闘したものの、年間物のストッキング、ソックスが苦戦

ライフクリエイト事業

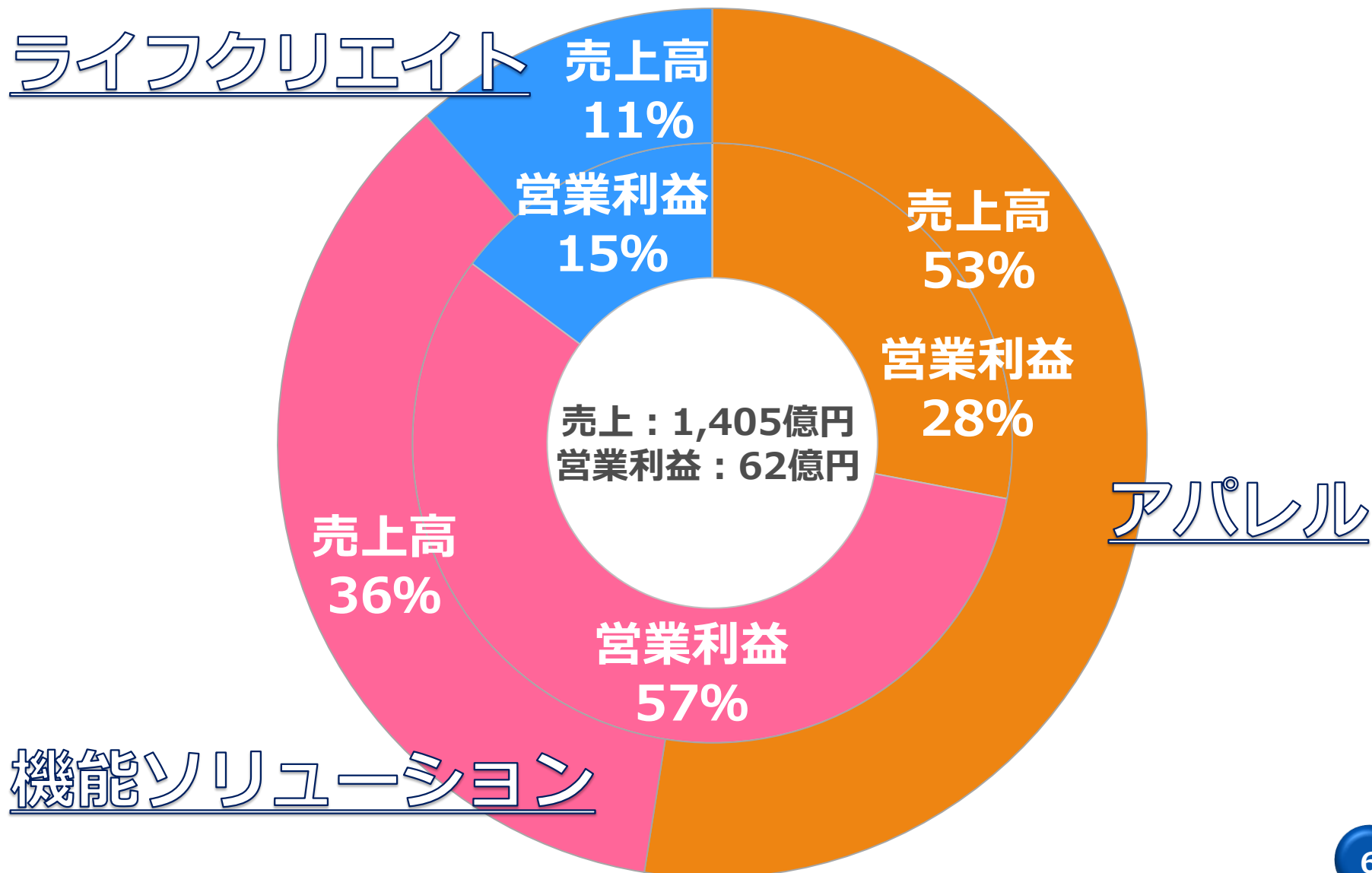
対前年 増減		主なポイント
売上高	10	◆不動産関連は、ショッピングセンター事業は地域に密着した運営により堅調、賃貸事業は新規物件が貢献
営業利益	1	◆スポーツクラブは、既存店の活性化やコストダウン効果等により新店の初期費用影響を吸収

I-3. セグメント別業績

(単位：百万円)

	売上高			営業利益（下段：利益率）		
	2018年 3月期 (2017年度)	2017年 3月期 (2016年度)	増減 上段：増減率	2018年 3月期 (2017年度)	2017年 3月期 (2016年度)	増減 上段：増減率
機能 ソリューション	50,828	50,195	1.3% 633	5,381 10.6%	3,468 6.9%	55.2% 1,913
アパレル	74,012	71,629	3.3% 2,382	2,628 3.6%	2,505 3.5%	4.9% 123
ライフ クリエイト	16,122	15,168	6.3% 953	1,386 8.6%	1,322 8.7%	4.8% 63
合計	140,521	136,579	2.9% 3,941	6,239 4.4%	4,206 3.1%	48.3% 2,032

I-4. セグメント別構成比



I-5. 特別損益

(単位：百万円)

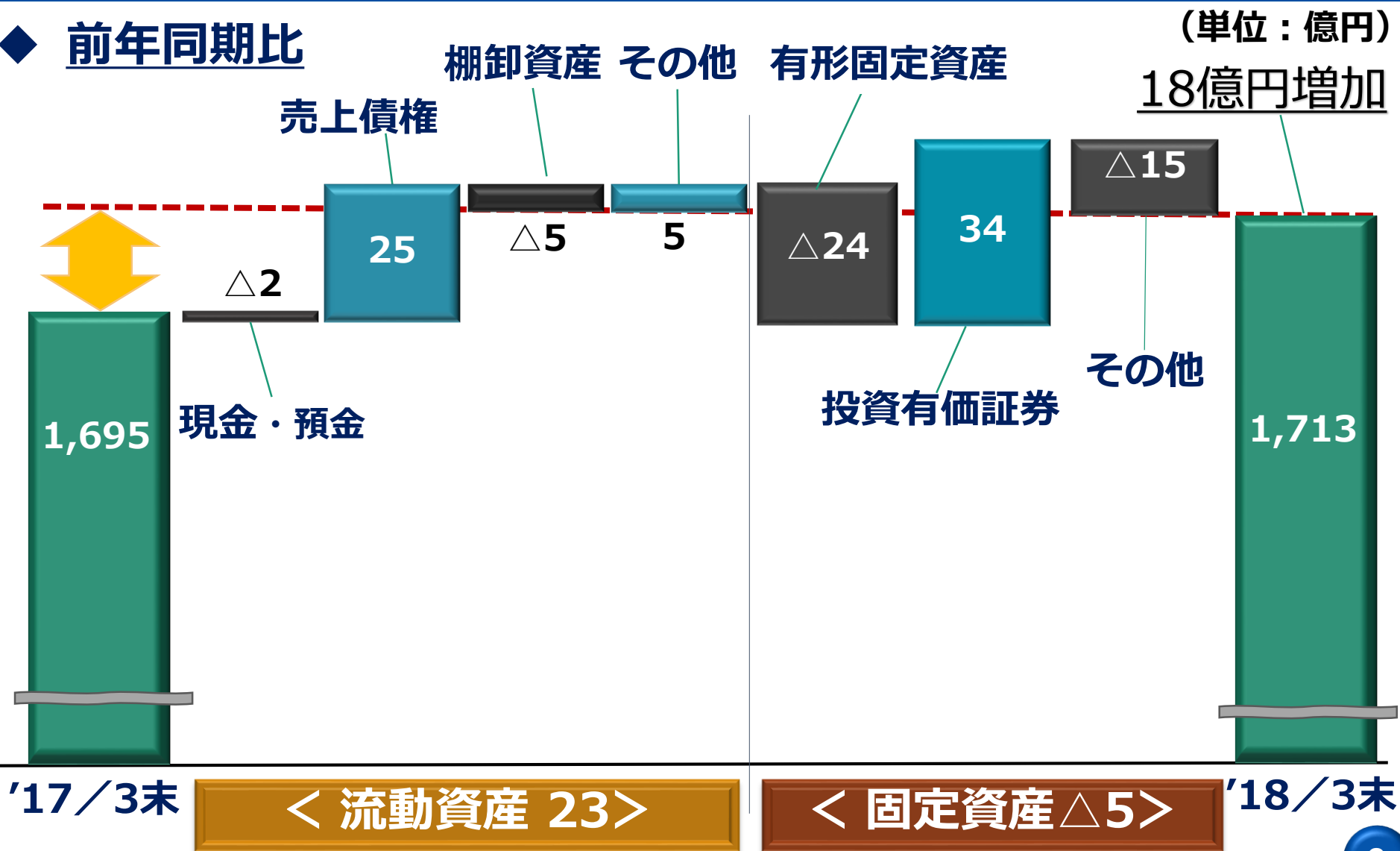
	2018年 3月期	2017年 3月期	増減
固定資産除売却損益	-274	1,441	△1,715
事業構造改善費用（電子部品）	-281	-446	165
固定資産減損（電子部品等）	-597	-2,303	1,706
有価証券売却益	14	314	△299
その他特別損益	-33	-362	329
特別損益合計	-1,171	-1,356	185

I -6. 主要財務・経営指標(連結)

	単位	2018年 3月期	2017年 3月期	増減
ROA:総資産営業利益率	%	3.7	2.5	1.2
ROE:自己資本当期純利益率	%	3.2	2.9	0.3
総資産	百万円	171,273	169,460	1,813
自己資本	百万円	111,141	108,153	2,988
自己資本比率	%	64.9	63.8	1.1
有利子負債額	百万円	28,374	28,469	△95
BPS : 1株当たり純資産	円	6,084.46	5,784.83	299.63

I-7. 資産の増減内容

◆ 前年同期比



I-8. キャッシュフロー

キャッシュフロー

(単位：百万円)

	2018年 3月期	2017年 3月期	増減
営業活動	9,007	13,832	△4,825
投資活動	△5,954	△7,834	1,879
FCF	3,053	5,998	△2,945
財務活動	△1,783	△4,116	2,332

■ 主な営業CF

税金等調整前当期純利益	5,275
減価償却費	6,528
売上債権の増加	△2,430

■ 主な投資CF

固定資産の取得による支出	△5,333
固定資産の売却による収入	767
投資有価証券の取得による支出	△1,252

■ 主な財務CF

コマーシャル・ペーパーの増加	2,000
自己株式の取得による支出	△2,097
配当金の支払	△1,399

I-9. 設備投資と減価償却費

◆ 前年同期比

(単位：百万円)

	設備投資			減価償却		
	2018年 3月期	2017年 3月期	増減	2018年 3月期	2017年 3月期	増減
機能ソリューション	1,991	1,677	314	2,667	3,105	△438
アパレル	1,176	2,110	△934	1,413	1,407	6
ライフクリエイト	1,040	5,539	△4,499	1,880	1,821	59
その他	1,327	411	916	566	527	39
合計	5,536	9,739	△4,203	6,528	6,861	△334



今期の 主な 投資実績

メディカル工場新築、生産設備

アパレル生産設備、基幹システム構築

賃貸住宅新築、商業施設及びスポーツ施設設備



Ⅱ. 事業セグメント別の概況

Ⅱ-1. 事業概況

◆ 機能ソリューション事業 1

■ プラスチック

主力商品の差異化によるシェア拡大と
 事業環境の変化に伴う新市場、新商品開発推進

◆ 製品群	概況
平板収縮	・ 国内はHOT飲料、海外はトイレタリーのハイブリッド需要が旺盛
ナイロン	・ 冷凍・チルド下での耐ピンホール性向上タイプが様々な用途で増加
工業用品	・ 半導体用パッケージダイシング基材が好調
OPP	・ 工場野菜（もやし、菌茸、カット野菜）向け防曇フィルムは堅調



■ 複合ナイロンPFタイプ

■ エンジニアリングプラスチック

主力OA商品の成熟化対策と
 非OA分野製品の拡大による新市場創造

◆ 製品群	概況
OA向け機能商品	・ OA市場への高機能商品提案が実り安定化
非OA分野	・ 半導体市場向け製品の旺盛な需要で好調を持続



■ 半導体製造用フィルター資材

Ⅱ-2. 事業概況

◆ 機能ソリューション事業 2

■ 電子部品

工場再編・合理化等の構造改革と
 事業のダウンサイジング化

◆ 製品群	概況
機能フィルム	<ul style="list-style-type: none"> 機能フィルム（OCA）の売上減が影響
タッチパネル	<ul style="list-style-type: none"> 抵抗膜方式からPCAP（静電容量）方式への移行 民生品から車載や文教用途等、BtoB向け提案推進
その他	<ul style="list-style-type: none"> 受託加工、ユニット品等の新規開拓案件の獲得

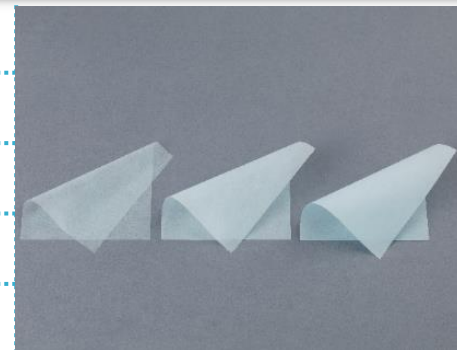


■ウエットコーティングシステム

■ メディカル

新工場建設など積極的な経営資源の投入と
 事業拡大に向けた生産・販売体制整備

◆ 製品群	概況
組織補強材	<ul style="list-style-type: none"> 中国向けは堅調も、国内販売体制構築に伴う在庫調整影響受ける
骨接合材	<ul style="list-style-type: none"> 国内新規取引先の開拓により堅調
人工皮膚	<ul style="list-style-type: none"> 海外(アジア) 向けが伸長し堅調
人工硬膜	<ul style="list-style-type: none"> 新商品「デュラウェーブ」の上市により好調



■組織補強材ネオバールナノ

Ⅱ-3. 事業概況

◆アパレル事業

■ インナーウェア分野

差異化技術による重点ブランド拡販で成長加速
 新規販路・売場の拡大

● 差異化技術商品が好調、成長販路が拡大

メンズ

- 18SS「YG」は、カットオフ新商品を投入し訴求強化
- スポーツカテゴリーが取扱店舗のシェア拡大により好調

レディース

- 「KIREILABO」完全無縫製ハーフトップ、ショーツ新商品好調
- 「Tuche」縫い目ゼロハーフトップが引き続き好調

■「YG」



■「BODYWILD」



■「KIREILABO」



■「Tuche」



■ レッグウェア分野

市場トレンドと消費者潜在ニーズを先取りした
 新市場・新商品の開発推進

● 防寒商品は健闘も、年間物のストッキング、ソックスは苦戦

- 18SS新商品「サブリナ」は、主力GMS、ドラッグでフェイス拡大
- 「ライザップ」中心に、ビューティ&ヘルス分野が好調



■ 18SS新商品「サブリナ」

Ⅱ-4. 事業概況

◆ライフクリエイイト事業

■ 不動産関連分野

● SC事業の現況

- ・ つかしん、鴻巣、前橋で運営するSC事業は堅調に推移（つかしんは、過去最高の売上・集客を達成）

● 不動産賃貸事業の現況

- ・ 新規物件（西宮、綾部賃貸住宅）収入が貢献



■つかしん

■ スポーツクラブ分野

● スポーツクラブの営業状況

- ・ 4月にオープンした新店（吹田ミリカ店、富山レガートスクエア店）の初期費用影響を既存店の活性化とコスト圧縮でカバー



■ガンゼスポーツ富山レガートスクエア店



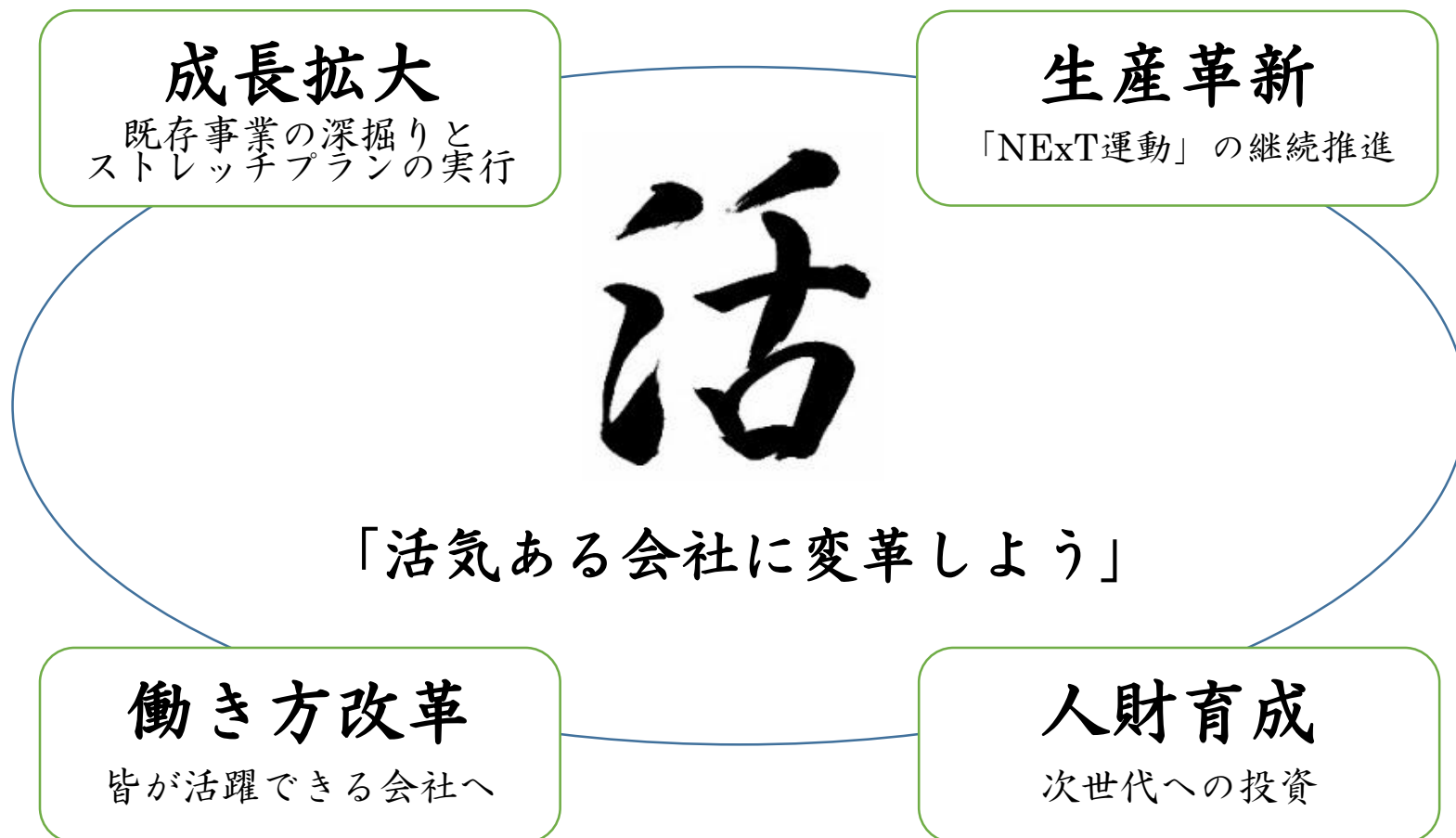
Ⅲ. 今後の見通し

Ⅲ-1. 2018年度経営方針（1）

CAN20 目標の達成に向け、
活力ある行動で2018年度計画を実行する。

1. 成長拡大
2. 生産革新
3. 働き方改革
4. 人財育成

Ⅲ-2. 2018年度経営方針（2）



2018年度は、中期経営計画「CAN20 計画第2フェーズ」の2年目にあたり、主力商品・主力チャネルの成熟化に対する戦略課題に全構成員の力を結集し、更なる成長に向けた取り組みを前倒しで進めてまいります。

Ⅲ-3. 2018年度重点戦略課題

【機能ソリューション事業】

- ・ **プラスチックフィルム：**
業績拡大のなか、新市場・新商品の開発とグローバル生産体制を更に強化
- ・ **エンジニアプラスチック：**
主力O A市場向け商品及び半導体関連等繊維技術活用製品の拡大
- ・ **電子部品：**
社内のフィルム事業分野とのシナジー効果を追求し事業採算化
- ・ **メディカル：**
更なる成長に向け国内新販売体制をスタート
新工場を含めたグローバルな事業運営体制の充実拡大

【アパレル事業】

- ・ **インナーウェア：**
オリジナル差異化技術を強みに主力ブランドの更なる拡販
成長チャネルである直販ルートと海外販売を強化
- ・ **レグウェア：**
市場トレンドと消費者潜在ニーズを先取りした新市場・新商品の開発

【ライフクリエイイト事業】

- ・ **不動産：**
新規賃貸事業の推進及び商業施設運営体制の見直しによる収益力の向上
- ・ **スポーツクラブ：**
海外を含む多店舗展開による売上拡大と効率運営

Ⅲ-4. 2019年3月期連結業績予想

業績予想

(単位：百万円)

項目	2019年3月期 (123期) 連結		2018年3月期 (122期) 連結		対前年	
	業績予想	利益率	実績	利益率	増減	増減率
売上高	145,000		140,521		4,479	3.2%
営業利益	7,000	4.8%	6,239	4.4%	761	12.2%
経常利益	7,000	4.8%	6,446	4.6%	554	8.6%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	4,000	2.8%	3,486	2.5%	514	14.7%

第123期 (2019年3月期)配当は、100円/株を予定しております。

Ⅲ-5. セグメント別業績予想

セグメント別の対前期比較

(単位：百万円)

	売上高			営業利益 (下段：利益率)		
	2019年3月期 (2018年度) 業績予想	2018年 3月期 (2017年度)	増減額 (率, %)	2019年3月期 (2018年度) 業績予想	2018年 3月期 (2017年度)	増減額 (率, %)
機能 ソリューション	53,000	50,828	2,172 4.3%	6,300 11.9%	5,381 10.6%	919 17.1%
アパレル	76,000	74,012	1,988 2.7%	2,800 3.7%	2,628 3.6%	172 6.5%
ライフ クリエイト	16,500	16,122	378 2.3%	1,500 9.1%	1,386 8.6%	114 8.2%
本社/消去	-500	-442	△58	-3,600	-3,157	△443
合計	145,000	140,521	4,479 3.2%	7,000 4.8%	6,239 4.4%	761 12.2%

Ⅲ-6. 設備投資と減価償却費

◆ 2018年度計画

(単位：百万円)

	設備投資			減価償却		
	2019年 3月期計画	2018年 3月期実績	増減	2019年 3月期計画	2018年 3月期実績	増減
機能ソリューション	2,700	1,991	709	2,700	2,667	33
アパレル	2,100	1,176	924	1,400	1,413	△13
ライフクリエイト	2,700	1,040	1,660	1,600	1,880	△280
その他	900	1,327	△427	800	566	234
合計	8,400	5,536	2,864	6,500	6,528	△28



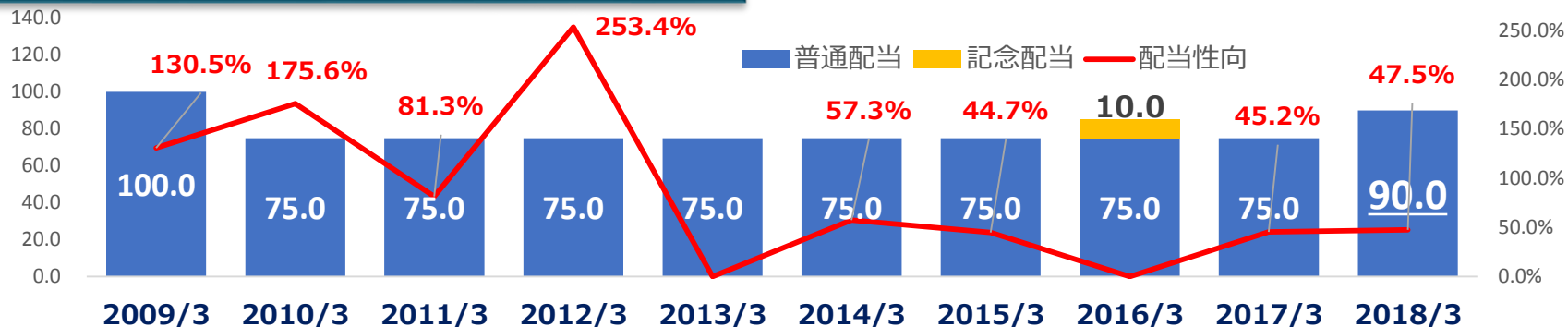
次期の 主な 投資計画

商業施設整備及び賃貸住宅新築	1,700
インナー生産設備及びシステム開発	1,200
プラスチックフィルム生産設備	1,000

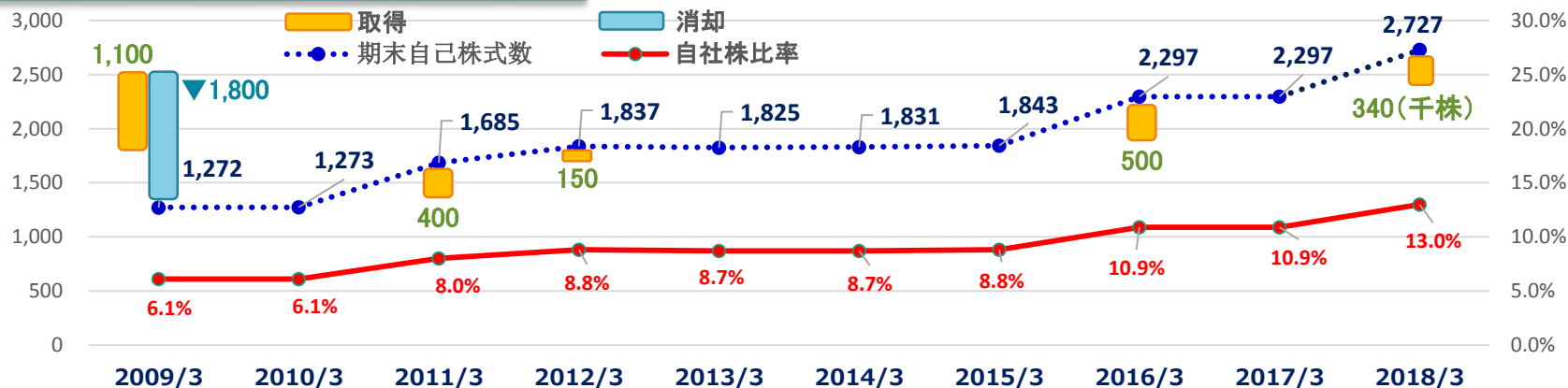
Ⅲ-7. 株主還元

1 株配当金と配当性向の推移

(単位：円)



自社株の状況



* 2017年10月1日からの株式併合(10株を1株)に合わせて、2017年3月末以前の株数を換算しております。

2018年度は、取得株数260千株、取得額1,850百万円をそれぞれ上限とし、自己株式を取得する予定です。

CAN 2 0 第 2 フェーズでは、連結配当性向 5 0 %、総還元性向 1 0 0 % を目途に利益還元を行う方針です。

明日をもっと、こちよく

GUNZE

本資料のうち、業績見通し等に記載されている内容は、
現在入手可能な情報による判断に基づいたものであり、
記載された将来の計画数値、施策を保証するものではありません。